

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT 及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	中学校	事例提供者	渋谷区立笹塚中学校
学年	全学年	教科等	総合的な学習の時間・学校行事
単元名	校外学習のDX（デジタルトランスフォーメーション）		
主な ICT 機器	タブレット PC（Windows／セルラーLTE モデル／一人1台）		
ワンポイント	校外学習の取組を完全デジタル化することで生徒の「情報活用能力」を育成するとともに、話し合い活動やプレゼンテーションによる「言語能力」、コース作成や食事場所の確保・交通費の確認など「問題発見・解決能力」の育成を図る。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報活用	STEP 4	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、表やグラフを用いて情報を統計的に整理できる ・クラウド等を用い、情報を効果的に管理・活用できる ・クラウド等を用い、情報を効果的に管理・活用できる ・目的に応じて収集した資料を多角的に考察し、新たな意味を見いだせる

関連動画：<https://youtu.be/1a6O0dm3ewg>

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<p>●一人1台のセルラーモデルLTEタブレットPCの活用</p> <p>LTEタブレットを一人1台の導入により、授業（校内）だけでなく家庭でも事前学習に取り組むことができ、班員と情報を共有することができる。校外での活動中も活用でき、個々に連絡をとることができる。</p>
【ポイント2】	<p>●クラウド（Webツール）の活用（Microsoft365）</p> <p>クラウド（Webツール）を活用し、デジタルしおりを作成した。事前学習では見学候補場所調べをグループごとに行い、それを基にコース作りを班ごとに行い、それらをすべてデジタルしおりに同時に書き込むことができる。当日は、タブレットで撮った写真をすぐにしおりに貼り付け、メモをすることも可能となる。</p>
【ポイント3】	<p>●プレゼンテーションツールの活用</p> <p>事前学習のまとめとして、班ごとに当日のコースや見学場所についてのプレゼンテーションを作成する。また、事後学習において個々にプレゼンテーションを作成する。</p> <p>その後、プレゼンテーションの練習を行う。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

時間	● 主な学習活動 ・ 生徒の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
1 ～ 4	<p>● 見学候補場所調べ【ポイント1・2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の中で見学候補場所を誰が調べるか分担する。 ・それぞれが調べたら、他の班の同じ場所を調べた人と情報を共有する。 ・デジタルしおりのテンプレートに調べたことをまとめる。 	<p>○ 調べる項目は事前に挙げておき、見学場所によって情報の視点が違わないようにする。</p> <p>☆ 調べたことを自分なりの言葉や表現でまとめることができている。</p>
5 ～ 6	<p>● コースづくり【ポイント1・2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学場所を決める。 ・現地での見学順と所要時間を決める。 ・学校から現地の交通経路を調べる。 ・これらを基に当日のコースをつくり、デジタルしおりに各自がまとめる。 	<p>○ 思考過程を記録できるワークシートを活用し、手書きメモも併用しながらデジタルしおりにまとめさせる。</p> <p>☆ 当日のコースをまとめている。</p>
7 ～ 10	<p>● 班でのプレゼンテーション作成【ポイント1・2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の中で作成スライドの分担をする。 ・班で一つのプレゼンテーションを完成させる。 ・班の中でプレゼン練習を行う。 ・学年全体の前でプレゼンテーションを行う。 	<p>○ ICT を効果的に活用してプレゼンテーションを行う。</p> <p>○ 様々なプレゼンテーションを見ることにより、事後学習の個人プレゼンテーションに活かすようにする。</p> <p>☆ 一人一人が主体的にプレゼンテーションの作成や発表を行うことができている。</p>

<p>11 ┆ 13</p>	<p>●昼食場所の確認と事前指導（確認） 【ポイント1・2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食場所の候補を具体的に決める。 ・感染症対策について確認する。 ・緊急時の対応について確認する。 ・班で自分たちの行程を最終確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な課題を検討・把握して、具体的な解決策を見つけ出す。 ☆課題解決に必要なことを理解しているか。
<p>学校行事</p>	<p>●校外学習当日 【ポイント1・2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時連絡（Web ツール） ・見学地の撮影、記録（タブレット PC） ・本部からの指示、連絡（Web ツール） ・班行動予定変更の連絡（Web ツール） ・緊急時の連絡（Web ツール） 	
<p>14 ┆ 18</p>	<p>●個人のプレゼンテーション作成 【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の学習をデジタルしおりにまとめる。 ・プレゼンテーションツールにて一人3分程度のプレゼンテーションを作成する。（家庭学習の課題） ・学級内でプレゼンテーションを行う。 ・学級代表者は学年でプレゼンテーションを行う。 ・学年代表者は全校の前でプレゼンテーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会で通用するように、早い段階からプレゼンテーションツールを一人で操作できるようにする。 ○各学級で選ばれたプレゼンテーションは両学級の前で発表することにより、各自の参考にする。 ○プレゼン能力を全校で育成するために、全校の前でも発表の機会を作る。 ☆アンケートツールを活用して、相互評価がしっかりできているか。

本時（第7時）の流れ

段階	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●作ったコースの確認【ポイント1・2】 ・再度、できあがったコースを班の中で確認し、吟味する。 ・プレゼンテーションの説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレゼンテーションの作成について、留意事項を説明する。 ☆班員全員がコースについて十分に理解することができているか。
班のコースや見学場所について、プレゼンテーション（5分）をつくろう。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●アウトラインの作成【ポイント1】 ・スライドのアウトラインを作成し、5分間でプレゼンテーションができるようにする。 ●スライドの分担【ポイント1】 ・アウトラインを基に、誰がどのスライドを分担するか決める。 ●スライドの作成【ポイント1・3】 ・スライドが各自で差がでないように、記入事項等を決める。 ・必要な文字を先に入力する。 ●資料収集と貼り付け【ポイント1・3】 ・写真等はインターネットを活用して、張り付ける。 ・スライドの見栄えを整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートにアウトラインを入力させる。 ○上のワークシートに担当者も入力できるようにしておく。 ○タイトルや書体等は班の中で揃えておくようにさせる。 ○著作権と肖像権について、以前、学習したことを振り返らせる。 ☆収集した資料を基に分かりやすいスライドを作成することができたか。 【思考力・判断力・表現力等】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●スライドを送る【ポイント1・3】 ・それぞれが作成したスライドを班員に送り合う。 ●スライドを結合する【ポイント1・3】 ・送られてきたスライドを、アウトラインを参考に結合する。 ●読み練習をする【ポイント1・3】 ・スライドを見て発表の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班長だけがまとめるのではなく、一人一人がスライドを結合し、まとめさせるようにする。 ○原稿は作らず、スライドを見て発表できる技術を身に付けさせる。 ☆一人一人が班のプレゼンテーションを完成させることができたか。 【知識・技能】

授業の実際

【ポイント1】 ● 1人1台のセルラーモデル LTE タブレット PC の活用



校内だけではなく校外や家庭でもネットワークを活用することができる。

校外学習でも、自分のタブレット PC で写真を撮ったものもすぐに共有できる。個人の連絡がいつでもとれる。

【ポイント2】 ● Cloud (Web ツール) の活用 (Microsoft365)



デジタルしおりを作成することにより、互いに書き込むことができ、効率が良い。

学年が一堂に会さなくても、プレゼンテーションを互いに見られる。

緊急時の連絡も確実にできる。

【ポイント3】 ● プレゼンテーションツールの活用



班 (グループ) での作業からスタートして、個人で作成できるように段階的に育成していく。多様なメンバーと議論し学習を進めることで、より良いものが創造できることを体感する。

今後に向けて

● テンプレートから自分たちで作成できるよう段階的に進める

初めてのデジタル化した校外学習では、教師がテンプレートを準備して作成を進めるが、最終的には生徒自身が企画をして、プレゼンテーションの作成まで主体的にできるように取組を進めていく。

● 他学年や他校とも実践を共有、さらにより良いものをつくっていく

完全にデジタル化した『未来の校外学習』はデータとして実践が残るため、学年や学校の枠を超えて事例共有し、ブラッシュアップしていくことで学びの質を高めていく。